

学校名 鹿児島市立錦江台小学校

項 目	活動内容等
1 推薦機関が受賞候補校等を推薦する理由	<p>リサイクル活動に関して、外部人材（鹿児島大学・鹿児島市役所・J A）を効果的に活用し、ダンボールコンポストを活用した堆肥づくりを行っている。</p> <p>また、鹿児島市学校版環境 I S O の取組を柱として、児童と教職員が協力しながら、環境教育を推進している。その中で、体験的な活動を重視して学習活動を進めることで、環境問題への理解を深め、環境保全のための行動を主体的に取り組むことができる児童の育成を体系的に推進している。</p>
2 受賞候補校等の活動状況等	<p>錦江台小学校は、自校方式により学校給食が提供されている。そのため、調理している場面を直接見ることができるなど、本校児童にとって学校給食はとても身近なものである。そこで、調理時に出る野菜の皮や芯の多くがごみとして処理されていることなど、学校給食と環境問題の関わりを教材化することで、児童が環境問題を自分事として受け止め、学習を深めることができると考えた。そこで、令和6年度から、5年生の「総合的な学習の時間」において、環境をメインテーマとして、年間を通してリサイクル等の学習を行っている。</p>
(1) リサイクル活動の動機・頻度	
① リサイクル活動を始めた動機及び開始年月	
② 活動の愛称名があれば記入して下さい	環境レンジャーになろう
③ 月 間 又 は 年 間 活動回数	<p>5 月 1 時間 ダンボールコンポストづくり</p> <p>5 月～1 1 月 野菜の皮・芯の補充やダンボールコンポストの管理（随時）</p> <p>1 0 月 1 時間 堆肥の完成、大根種まき</p> <p>1 1 月 P T A 主催「錦江台マルシェ」での堆肥等の販売</p> <p>1 2 月 1 時間 大根の収穫、大根を使った調理・試食</p> <p>2 月 3 時間 錦江台マルシェの益金を活用した校内「ふれあいの森」の看板作成・設置</p> <p>※ 本単元の総時数 6 4 時間（総合的な学習の時間）</p>

項 目	活動内容等			
④ 活動のエリア	錦江台小学校校内			
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	5年生児童 108 人 教職員 7 人 ※ 活動によっては、保護者や地域住民の支援や協力あり。			
⑥ 活動1回当たりの平均時間	1 単位時間 45 分程度 ダンボールコンポストの管理に関しては、毎回 15 分程度である。			
⑦ 取り扱った回収実績数量	品 目	前々年度	前年度	当年度(見込)
	野菜の皮・芯	—	216kg	264kg
⑧ 回収した資源物の処理方法	ダンボールコンポストによる堆肥化			
(2) 活動の独創性活動の特徴	鹿児島大学や鹿児島市役所など、専門家の協力を得ながら、堆肥づくりを進めている。また、ダンボールコンポストによる堆肥作りにとどまらず、作った堆肥を活用して野菜の栽培活動を行ったり、販売した益金で学校の施設整備を行ったりするなど、リサイクルすることのよさや効果を実感できる活動や学習を進めている。更に、SDGs に関する調べ学習や、環境保全に関する各種施設の見学活動など、環境問題を幅広く学ぶ学習を1年にわたって計画的に行い、環境問題への理解を深め、環境保全のための行動を主体的に取り組むことができる児童の育成を、体系的に推進している。			
(3) 地域への貢献度	P T A主催のバザー「錦江台マルシェ」には、多数の地域住民が訪れた。5年生が堆肥やさつまいもの販売をする際に、これまでに取り組んだ活動の紹介等を行うことで、児童の環境問題や環境保全に対する意識の高さを知ってもらうことができた。そのことが、地域住民の方々に環境問題に関する関心を高めてもらえる場となり、環境をよりよくしていこうとする機運を地域とも共有する機会となった。			
① 地域の環境美化への貢献				

項 目	活動内容等
② 地域住民との協力活動	「ふれあいの森」看板設置に係る支援をいただいた。 マスコミ取材を活用するなど、学校で行っている環境に関する学習活動を積極的に広報している。そのことにより、次世代の錦江台校区を担う児童が、環境保全の取組を継続して行っていることに対して、地域の方々からは称賛の声を多数いただいている。
③ 児童・生徒の活動に対する地域住民の反応	
(4) 環境教育との関連	「身の回りの環境に関心をもち、よりよい環境づくりに主体的に取り組む子どもの育成」を環境教育の目標として設定し、環境保全に向けて自ら選択・判断し、主体的に行動できる児童の育成を目指して、各教科や特別活動等において体系的に教育活動を推進している。
① 環境教育と活動との結びつき	
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	自ら行動することが環境保全に繋がることを児童自身が実感したことにより、普段の学校生活においても環境保全に向けてごみの分別や節電などを意欲的に取り組む児童が増えてきている。
③	
④ 当該活動以外の環境教育実践活動	<p>鹿児島市学校版環境 I S O の取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 節電、節水、ごみの分別・減量 ・ 高学年を中心とした毎日のボランティア活動の推進 ・ 校内や学校周辺の清掃活動を主とした取組
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか	なし
(6) 校内外活動のための時間の作り方	リサイクル活動に関しては、総合的な学習の時間への位置付けを行うことで、計画的に学習活動を実施している。また、ダンボールコンポストの日常の管理については、児童が分担しながら朝の時間や休み時間等を活用して活動を行っている。
3 その他特記事項	なし

1 5年生「総合的な学習の時間」におけるリサイクル活動

(1) 単元の目標等

ア 単元名

「環境レンジャーになろう」

イ 単元の目標

- ・ 環境問題やSDGsの17項目について興味・関心をもち、意欲的に調べたり、考えたりすることができる。
- ・ 環境問題やSDGsの中から自分の関わりそうな課題を見付け、それらの抱える問題点を見だし、解決していこうとする態度を身に付けることができる。
- ・ 友達の意見を聞いたり話し合ったりして、互いを尊重しながら体験や調べ学習ができるとともに、周りの人々や環境にも目を向けて学習したことを実践していくことができる。
- ・ 今までに学習したことをタブレット等を使ってまとめ、発表することができる。

(2) 学習の概要

ア 専門家（鹿児島大学）の指導・助言を受けながら、ダンボールコンポストの作成を行った。5月中旬から始め、毎日野菜の皮や芯を補充しながら、堆肥づくりを進めていった。



専門家による
指導・助言



木くずに野菜の皮や芯を混ぜる作業



水をまく作業

イ 11月にダンボールコンポストで作成した堆肥が完成した。その堆肥を活用し、大根の栽培活動を行った（併せて、さつまいもの栽培活動も行った）。



作成した堆肥を
畑にまき、土づくり



大根の収穫



さつまいもの収穫

ウ 収穫した大根を調理し、児童自身が匂の味覚を味わう活動を行った。



大根葉を使ったふりかけづくり



自分たちで育てた野菜をおいしくいただく様子

エ P T A主催のバザー「錦江台マルシェ」で、児童が堆肥やさつまいもを販売する活動を行った。多くの人に目立つようにのぼり旗を作成したり、購買意欲を高めるためにさつまいものレシピ集を同封したりするなど、児童のアイディアを基に様々な工夫を行い、完売させることができた。



協力して堆肥やさつまいもを販売する様子

オ 「錦江台マルシェ」の益金で材料を購入し、校内にある「ふれあいの森」の手づくり看板を作成した。看板設置に関しては、保護者や地域の方々の御協力をいただいた。



給食で使わなかった食材の一部をリサイクルすることで、最終的には学校全体で活用できる物を作成することができた。この学習活動を通して、児童は普段ごみとして捨てている物も、リサイクルをすることで資源として新たに有効活用できることを強く実感することができた。

2 環境問題への理解を深め、環境保全のための行動を主体的に取り組む態度を育成する教育活動

(1) 広報活動の充実

掲示板を活用したり、環境委員会の児童が演じる「環境守るんジャー」が児童集会で啓発を行ったりして、環境問題や環境保全に関する学校全体の意識を高めていく活動を行っている。



環境保全を呼び掛ける掲示板



児童集会での「環境守るんジャー」の発表



環境委員会児童がテーマごとにポスターを作成し、校内に掲示

(2) ごみの減量・分別の取組

毎週金曜日の朝に、環境委員会の児童がごみの回収・分別活動に取り組んでいる。ごみを回収・分別をすることで、ごみやごみ袋の削減につながっている。また、集めたごみの量を測定し、全校に紹介することで、ごみを削減する意識を高めている。



ごみを回収・分別する様子

(3) 環境チェックカードによる振り返り

毎週金曜日の帰りの会で、各学級「環境チェック」を行っている。環境委員会は、毎週カードを回収し、取組状況を点検し、シールを貼ったり、コメントを書いたりして返却している。月末には、「毎週欠かさず環境チェックに取り組めた学級」や「全て二重丸だった学級」を校内放送で紹介している。

5月環境チェックカード レンダー 5年 5組

※ 毎週金曜日の帰りの会で「環境チェック」をしましょう。

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

項目	チェック項目	12月	1月	2月
1	使っていない教室やトイレの電灯は消しましたか。	◎	◎	◎
2	教室のゴミの分別は、持ち帰りのゴミは、持ち帰りましたか。	◎	◎	◎
3	教室のゴミは、しっかりと処分しましたか。	◎	◎	◎
4	教室のゴミは、しっかりと処分しましたか。	◎	◎	◎
5	教室のゴミは、しっかりと処分しましたか。	◎	◎	◎
6	教室のゴミは、しっかりと処分しましたか。	◎	◎	◎
7	教室のゴミは、しっかりと処分しましたか。	◎	◎	◎

環境委員 環境委員会 5年 5組
 環境委員 環境委員会 5年 5組

環境チェックカード

(4) ボランティア活動

毎日、高学年の児童が主となり、ボランティア活動を行っている。校内や学校周辺の清掃活動を中心に、多くの児童が主体的に取り組んでいる。高学年児童が学校のために頑張る姿を見て、ボランティア活動を行う児童が下学年にも広がってきている。



5・6年生が主となり、学校内外の環境美化に主体的に取り組む様子

数年間にわたる継続的な実践により、児童が主体的に環境保全に取り組もうとする意識確実に定着してきている。また、社会に貢献する活動を行っていることが、児童の自己有用感の高まりにも繋がっており、体験的な活動を通して非認知能力の育成を図ることができている。